

新臨床腫瘍学(改訂第7版)

編集：日本臨床腫瘍学会

B5判 816頁 南江堂 2024年2月
定価 17,600円(本体 16,000円+税 10%)



Nankodo.co.jp



急速に増大する臨床腫瘍学の情報を漏れなく、コンパクトに記載した素晴らしい教科書

評者 | 大江裕一郎(国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科長/副院長)

このたび日本臨床腫瘍学会編集の『新臨床腫瘍学(改訂第7版)』が刊行された。日本臨床腫瘍学会では、研究会時代の1996年から臨床腫瘍学の教科書を定期的に刊行してきた。『新臨床腫瘍学』は、第3版まで出された前身の『臨床腫瘍学』の後を受けて2006年に初版が刊行され、それ以降、臨床腫瘍学の急速な進歩に遅れをとらないよう3年に1回の改訂を継続して、今回、改訂第7版の刊行に至った。歴代の編集委員や多くの執筆者および南江堂の関係者の方々に、心より敬意を表したいと思う。前版の刊行とともに次版の編集に着手するという非常にタイトなスケジュールであったのではないかと想像する。

『新臨床腫瘍学』は、がん薬物療法専門医に必要とされる臨床腫瘍学に関するすべての知識を総論・各論ともに非常にコンパクトに記述していることが特徴である。臨床腫瘍学の進歩に伴って記載すべき事項が膨大となることが懸念されるが、内容を取捨選択することによって、新しい知見を漏らさず掲載しているにもかかわらず、頁数は初版から改訂第7版まで同程度を維持している。

改訂第7版では、序章として「日本のがんの動向と腫瘍内科」「日本のがん対策の動向」「日本の保

険診療体系とがんの医療経済学」の項目が新たに設けられた。また、がんの診断の項目では新たに「コンパニオン診断と包括的がん遺伝子プロファイリング検査」が追加され、さらには「AYA世代のがん」「サバイバーシップ」「がん医療における倫理的原則」「患者-医療者コミュニケーション」「補完代替医療」などの項目が新設され、第4期がん対策推進基本計画に即した内容となっている。

前版発行後の約3年間で、多くの薬剤が新たに登場あるいは新たな適応を取得するに至っている。また、各論では治療体系がさらに細分化されるとともに、術後の治療に免疫チェックポイント阻害薬が導入されるなど、治療に大きな変化があったがん種も少なくない。本書は、このように急速に増大する情報を漏れなく、コンパクトに記載した素晴らしい臨床腫瘍学の教科書となっている。紙幅の制約があるにもかかわらず、「副作用対策と支持療法」の項目が大幅に拡充されていることには驚かされ、臨床に重きを置いた編集方針に大きな感銘を受けた。

本書が多くの腫瘍内科医、がん薬物療法専門医に教科書として使用され、日常のがん患者の診療に貢献することを期待している。